

# 神楽坂まちづくりの歩み

2026, 2, 2

観光立国研究会 寺田 弘

## I期 まちの基準は「いき」

- ・昭和63年新宿区の「都市整備方針」により神楽坂が推進地区になる。
- ・平成3年に神楽坂地区まちづくりの会発足。かつて「いきなお江戸の坂のまち」は閑散として休日でも人の姿なし。
- ・6年「まちづくりアイデアコンペ」入選を期に入会。  
注) 応募作品「まち全体を劇場空間にする—キーワードは『いき』」で優秀賞。  
タウン誌発行者と連携し「いき」のキャンペーンを張る。  
同年**まちづくり憲章**「いき」(粋、意気、生き)が基準の憲章成立。
- ・7年建築家と都市計画フォーラム(都内中心に70名参加)を開催。
- ・11年イベント「まち飛びフェスタ」開催。街の諸施設が活気を帯びる。

### 出版文献

タウン誌「ここは牛込、神楽坂」(平成6~13年)  
「わがまち神楽坂—坂と石畳とそして坂」(平成7年)  
「まちづくりキーワード集」(平成9年)

## II期 NPO法人設立でまち守り

- ・平成12年31階超高層マンション建築計画が出てまちづくりの会活動中断、建設反対運動が起こり行政訴訟、住民訴訟がなされるも敗訴。
- ・15年地元建築家、都市デザイナー、弁護士等有識者を集め**NPO法人 粋なまちづくり倶楽部**(理事長に指名される)を設立。通り商店会とも連繋し、路地と界隈性を保持する方針強化。
- ・19年**地区計画の策定**—神楽坂の通り31M、背後住宅地21M確定。  
この期間東大の西村幸夫教授並びに大学院学生の多大な支援を受ける。

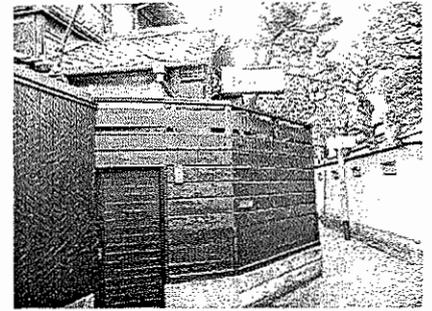
## III期 外来者によって街は賑わいだす

- ・平成13年月1回の地元の人によるまち語り(「まちづくり住まいづくり塾」を開始—本年2月度で239回)をはじめ、落語の定期開催、能、古典芸能の紹介等その他ゆかたの街歩きなど多彩な催しを展開する。  
16年花柳界の街への宥和策が功を奏し、江戸期の「いき」を伝える踊りや遊びの披露が始まる。
- ・17年位から神楽坂に行けば「江戸情緒や『いき』に出会える」という期待からか外来者で徐々に賑わい出す。

※

粋なまちづくり倶楽部平成17年活動スケジュール

会議名	頻度	内 容
運営および事業委員会 理事会	1回/月	運営に関する提案、進行状況チェック 事業・イベント・法規などの議決
[ゼミ]		
まちづくりすまいづくり塾	〃	地元の歴史、文学・芸能、建築など
自主ゼミナール	〃	地域ブランド・地元主体のまちづくり
[検討会]		
地区計画策定検討会	随時	調査、プランづくり、興隆会サポート
粋な建築検討会	随時	路地に合う建築のデザイン検討
ファンド検討会	1回/月	建物保全、事業化促進のファンド創設
NPO組織検討会	随時	組織の形、事業プログラム、財源確保
[事業化プロジェクト]		
コミュニティビジネス	随時	「和しごと屋」「まこちゃん弁当」など
よろず相談所	随時	相続対策、住宅問題など
遊休店舗の活用支援	随時	斡旋、コンバージョン、事業導入
[連携]		
R銀行・M建設など	随時	イベント協賛、販売ルートの確保
[運動検討]		
1店逸品運動	随時	個店の底上げ支援
芝居小屋プロジェクト	随時	伝統文化発表の場としての演芸場再建
[イベント実施]		
神楽坂寄席	1回/3月	立川志らく、古今亭菊之丞
能	1回/年	観世流長山耕三
コンシェルジュ(着物)	〃	花見と和服
(ゆかた)	〃	ぼおずき市特別参加
まち飛び	〃	調整支援
第3回全国路地サミット	〃	銀座、神楽坂、金沢しつらえの路地特集
全国都市再生まちづくり会議	〃	パネル展示による参加
[出版企画]		
路地に関する出版	随時	連続路地シンポジウムのまとめ
[その他]		
ボランティア説明会	1回/2月	まち歩きと活動紹介
地域通貨検討	随時	既存のポイントカードとのドッキング
他地区NPOとの連携	随時	地方と当地の事業連携など
都心コミュニティの形成	随時	公園整備、ルール作成検討
全国の匠との連携	随時	伝統技術の保存地
地元興隆会との連携	随時	地区計画支援、住環境支援活動



神楽坂の伝統的路地界限



坂にお絵かき  
「まち飛びフェスタ」のメインイベント



まちづくりルール検討  
ワークショップ

#### IV、伝統芸能のエネルギーが街にあふれる

- ・平成28年 東京都と組んだ「神楽坂まち舞台、大江戸まつり」が街に託され長唄、囃子、浪曲、備前琵琶、義太夫、日本舞踊、講談、新内流等々が街中で催され、5月の中旬の2日間街は人の渦になる。  
**春**の本イベント、**夏**の商店会の「阿波踊り」、**秋**の「まち飛びフェスタ」と3大イベントが定着。その間に小イベントも開催。
- ・定期的に現代的テーマのディスカッションの催しを実施し外来者との接触も意図的に計られている。
- ・令和に入りNPOの催しに対しては外来者(特に若い人達)から「自分たちの才能を使って欲しい」との声が多数あがり参加者が増大。
- ・街内外の多くの人の支援によるまちづくり(まちつむぎ)が始まっている。

※ 出版文献 「粋なまちづくり 過去・現在・未来」(平成22年)  
「粋なまち神楽坂の遺伝子」(平成25年)

以上